

平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 1 - 8
事務事業名	とくしま強い農林水産業づくり事業（農業）			担当課係	産業振興課
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	産業の振興		内線等	
	小項目	1. 安全・安心な特色ある地域農林水産物の産地育成・ブランド化とそのための環境整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	6	農林水産業費	項	1
	目	3	農業振興費	事業	9
開始年度	平成	17	年度	根拠法令・要綱等	とくしま強い農林水産業づくり事業実施要領

事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 事業主体：東とくしま農業協同組合、小松島南部キュウリトマト省エネ栽培研究会 受益者：農業者
事業の目的（意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） ・戦略用作物（大豆）機械設備の導入：戦略作物（大豆）機械設備を導入することで、戸別所得補償モデル事業に参加する水田農家が「新規需用米」以外の作物として、大豆栽培に取り組みやすい環境を整備することになり、地域農業者の所得向上を図ることを目的とする。 ・雨よけハウスの導入整備：雨よけハウスを導入することで、気象条件に左右されにくい周年栽培が可能となり、受益者の農家経営の安定に寄与し地域農業の担い手化を図ることを目的とする。 ・多頭型静電噴口の導入整備：農薬を霧状にし正電荷に帯電させる多頭型静電噴口を導入することで、作物への薬液の付着が格段に良くなり、薬液の使用量が節約できるとともに、防除効果が向上することで、防除回数の低下や経営費の削減を図ることを目的とする。 ・製函機の導入整備：金属ピンを使わない製函機を導入することで、消費者の安全安心が図られ、キュウリ産地としての単価向上及びブランド力の向上を図ることを目的とする。 ・循環扇・換気扇の導入整備：キュウリ・トマトハウスに換気扇と循環扇を導入することで得られる省エネ効果と果実の品質向上と収量安定による低コスト化を図り、安定的なハウス園芸産地の維持発展を目的とする。
事業の内容（内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） ・戦略用作物（大豆）機械設備の導入支援（東とくしま農業協同組合） ・雨よけハウスの導入支援（東とくしま農業協同組合） ・多頭型静電噴口の導入整備（東とくしま農業協同組合） ・製函機の導入整備（東とくしま農業協同組合） ・循環扇・換気扇の導入支援（小松島南部キュウリトマト省エネ栽培研究会）
事業の背景（経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） ・戦略用作物（大豆）機械設備の導入：戸別所得補償モデル事業に参加する農家が「新規需用米」以外の作物の一つとして、大豆栽培に取り組み生産調整を達成しやすくする環境が必要であり、また麦・大豆・飼料用米等を組み合わせた労働力を分散化する効率的な経営を行うために、本事業を導入したいとの要望があった。 ・雨よけハウスの導入整備：本市には水田経営を中心とする農家が多く、近年の米販売価格の低迷のため、経営の見直しを迫られており、また就農に興味がある自営業者や定年退職者当が地域に存在しているが、安定的な農業経営を望んでいることから参入に二の足を踏んでいる現状である。そこでJAの産直市と連携し、一年を通して必要な葉物野菜を中心とした栽培体制を整備したいとの要望があった。 ・多頭型静電噴口の導入整備：ハウスキュウリ・トマトは施設園芸の中でも管理作業が多く、特に防除回数が多くなることから非常に手間のかかる作物である。また頻りに防除を行うことから高騰している農薬費による経営圧迫や生産者の健康被害も心配されることから、防除回数の低下による飛瀑回数の低減や経営費の削減を図りたいとの要望があった。 ・製函機の導入整備：坂野地区のキュウリ共選施設について、施設導入当時は、段ボール箱の製函作業は金属ピンによるホッチキス止めが普通であったが、段ボール箱に金属が混ざり込む危険があるため、近年ではホットメルト方式が普及している。そのためホットメルト式を導入することで流通市場や消費者の信頼を得ることができ、有利販売や販路拡大を図りたいとの要望があった。 ・循環扇・換気扇の導入整備：燃油価格上昇する昨今の情勢があるなかで、循環扇・換気扇の導入による省エネ栽培をすることで燃油の節約等の経営の低コスト化と軽労働化を図りたいとの要望があった。

事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果		
	各事業の内容が異なっているため、具体的に成果指標をすることは困難である						食料自給率の向上 担い手の労働分散化 地域農業の担い手化の促進 生産者の飛瀑回数の低減による安全性の向上 キュウリ産地のブランド力の向上 キュウリ・トマト産地の維持・発展 キュウリ・トマトの品質の向上		
	単位		H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	将来目標 (年度：平成)		
	目標								
	実績								
	達成度								
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	計画	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	指標の説明
	戦略作物（大豆）機械設備の導入	円	計画						事業費
			実績			14,740,000			
	雨よけハウスの導入	円	計画			5,400,150			事業費
			実績						
	雨よけハウスの棟数	棟	計画				27	22	事業費
			実績			6			
	多頭型静電噴口の導入	円	計画			1,273,650			事業費
			実績						
	製函機の導入	円	計画			6,510,000			事業費
実績					7,204,050				
換気扇・循環扇の導入	円	計画		13,651,000	5,642,700			事業費	
		実績							
換気扇・循環扇の台数	台	計画		110	64			台数	
		実績		110	64				

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	A	直接事業費	7,850,000	13,174,000	0	22,928,000
		財源内訳	国県支出金	6,840,000	11,186,000		
			地方債	0	0		
			利用者負担	0	0		
			一般財源	1,010,000	1,988,000		
		B	人件費 x	496,300	1,041,503	0	
		職員平均人件費	4,963,000	5,207,515			
		従事した割合	人	0.1	0.2		
		A + B		8,346,300	14,215,503	0	
		単位コスト	活動指標の説明	受益戸数	1,405戸	64戸	
活動指標1単位当たりコスト		5,940	222,117				
市民一人あたりのコスト		200	342				
						備考 平成21年4月1日現在 人口41,778人 平成22年4月1日現在 人口41,507人	

事業を取り巻く環境

<p>国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測</p>	<p>(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略用作物(大豆)機械設備の導入：大豆の価格は生産量によって大きく変動することから、大豆経営生産に取り組むことで、消費者も安全で安心な国産大豆を求めやすくなるため、担い手を中心とした栽培が集約できるように今後も市、農協で連携して推し進める必要がある。 ・雨よけハウスの導入整備：水田経営に野菜栽培を組み込むことで、計画出荷が可能となり、農業所得の向上が見込まれることから地域農業の担い手化に向けて、市、農協で連携を取りながら推し進める必要がある。 ・多頭型静電噴口の導入整備：効率的な農業散布による農業使用量・防除回数軽減や経営費の削減と、飛瀑回数の低減による生産者への健康被害への影響を軽減することは ・製函機の導入整備：ホットメルト式を導入することで流通市場や消費者の信頼を築き、有利販売や販路拡大を図りながら、坂野地区のキュウリ栽培農家の後継者定着につなげていくことは喫緊の課題であり、今後も市、農協で連携する必要がある。 ・循環扇・換気扇の導入整備：燃油価格上昇する昨今の情勢がある中で、循環扇・換気扇の導入による省エネ栽培をすることで、燃油の節約等の経営の低コスト化と軽労働化を図っていくことの重要性が高まっている現状である。
<p>事業に対する住民の意見</p>	<p>(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など)</p> <p>・戦略用作物(大豆)機械設備の導入：現在、輸入大豆の大半が遺伝子組み替え大豆となりつつあり、消費者は遺伝子組み替えでない国産大豆を強く求めている。また大豆の価格は生産量によって大きく変動するため大豆経営生産に取り組むことで、消費者も安全で安心な国産大豆を求めやすくなることから行政のさらなる支援が求められている。</p> <p>・雨よけハウスの導入整備：産直市の青果供給体制が安定し、地元供給率の向上することで、地産地消の魅力が高まり、産直市の集客力の向上に寄与する</p> <p>・多頭型静電噴口、製函機、循環扇・換気扇の導入整備：将来にわたっての産地発展のためには、地域における中核農家の経営基盤を高めていき、後継者を育成することが必要である。そのための行政の協力体制が必要である。</p>

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
<p>必要性 (市民ニーズ)</p>	<p>必要性が高い どちらかといえば必要性がある 必要性が低い 必要性がない</p>	<p>本市農林水産業にとって主力農産物の一つである水稲及びブランド産品であるキュウリトマトの消費拡大、生産拡大を図ることは地域振興に大きな影響力を持っている。そして大豆の栽培と兼作野菜に取り組む農家の所得向上及び効率的な経営を行うことで、地域農業の担い手化を図り、新規担い手の確保をめざす必要がある。そのため農業者及び農業協同組合に機械、施設の支援を行うことは必要性が高い。</p>
<p>妥当性 (市で行わなければならないか)</p>	<p>市が行わないといけない どちらかといえば市で実施 必然性が高い 必然性がない</p>	<p>市と農協が連携することで、本市の農林振興方針と農産物のブランド力の強化が可能となるため、市で行う必要性は高い。</p>
<p>効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)</p>	<p>効率的である どちらかといえば効率的 どちらかといえば非効率的 非効率的</p>	<p>補助率は、とくしま強い農林水産業づくり事業実施要領で定められており、その中で実施しているため効率的であるといえる。</p>
<p>緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)</p>	<p>緊急性が高い 比較的緊急性がある 緊急性が低い 緊急性はない</p>	<p>農業者の経営は年々圧迫されており、当事業を中止すれば、機械・施設の導入が困難となり、農業者の経営は深刻なものとなるため、比較的緊急性がある。</p>
<p>成果 (目的の達成状況)</p>	<p>成果が上がっている どちらかといえば上がっている どちらかといえば上がっていない 成果は上がっていない</p>	<p>戦略用作物(大豆)機械設備を導入することで大豆栽培に取り組める環境作りが整い、担い手の労働力分散による経営改善へ誘導することで、雨よけハウスの導入においては、受益者の農業経営の安定と地域農業の担い手化を図ることができた。また循環扇・換気扇、製函機、多頭型静電噴口の導入によりキュウリトマトハウス農家が安全に作業に取り組むことができ、また生産性向上につながり安定的経営をすることが可能となり、将来の担い手を育成する環境が整うことで、強い産地に寄与することができた。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>今後とも事業を実施する際に、効果的な機械、施設であるかを見極めていく必要がある。</p>	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
1	<p>2 現状のまま継続する 60 - 79点</p> <p>3 改善・効率化し継続 50 - 59点</p> <p>4 見直しの上縮小する 40 - 49点</p> <p>5 終期設定し終了 30 - 39点</p> <p>6 休 止 20 - 29点</p> <p>7 廃 止 19点以下</p>	86	1	<p>市の農産物の生産性向上につながり農家の安定的経営を図るため、JA等が県単独事業「とくしま強い農林水産業づくり事業」を有効に活用し、施設整備を進めており、今後とも継続するべきである。</p>

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1 拡 充 す る	判定説明
1	<p>2 現状のまま継続する</p> <p>3 改善・効率化し継続</p> <p>4 見直しの上縮小する</p> <p>5 終期設定し終了</p> <p>6 休 止</p> <p>7 廃 止</p>	<p>生産者・JA等と連携を図りながら、今後も積極的に事業を活用し、農業振興を図る。</p>